

# A校A教諭 7月の実践



- ・ 単元名 「がまくんとかえるくんがしたことやようすがわかるような音読げきをしよう」(読)
- ・ 教材名 「お手紙」(東京書籍 2年上)
- ・ 身に付ける力 … 登場人物の行動や様子を場面ごとに捉えながら読むこと。

《本単元の大まかな流れ》(全 11 時間)

第一次：初読の感想を書き、学習計画を立てる。  
 第二次：それぞれの場面において、文中の言葉や挿絵に着目しながら音読劇に生かせそうな登場人物の行動と様子を読み取る。  
 第三次：グループごとに担当する場面を決め、音読劇の練習をする。  
 音読劇の発表を行い、学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

授業改善の観点	児童の実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択	取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)	本単元での児童の姿	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等
単元前						
A 見通す	①	単元の学習計画に沿って、身に付ける力を意識しながら、本時や単元のゴールを見通している。	<b>f</b> 学習課題で、何をどのようにすれば、どのような力が身に付くのかを児童と共通理解しておくことで、学習への目的意識や必要性を実感できるようにする。 <b>g</b> 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでのプロセスのイメージをつかめるようにする。	○登場人物の行動や様子を読み取る力を身に付けるために、「挿絵や叙述を比べる」という思考操作を児童に提示していた。それにより、学習の進め方が児童にとって明瞭になった。 ○学習計画を表にして掲示したことにより、児童は単元のゴールを見据え、今どの部分を学習しているのかを把握することができた。	② ステップUP	<b>j</b> 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。
B 自ら考える	①	自ら問いを立て、何をどのようにしたら解決できるか考えている。	<b>h'</b> モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。 <b>n</b> 板書やワークシートを工夫することで、考えを整理できるようにする。	○以前受け持った学級の児童による音読劇を動画で提示することにより、本単元での課題を明らかにすることができた。 ○2つの場面について、挿絵や叙述を対比的に捉えられるワークシートを作成したり、ワークシートと同様の形式で板書したりすることで、児童が考えを整理しやすくなっていた。	② ステップUP	
C 対話する	①	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。	<b>o</b> 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。 <b>m'</b> もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする。	○音読劇の練習の様子を、音読劇発表会の前に動画で記録して見せたことで、児童は友達や自分たちのよいところに気付くことができた。 ○後半のペア対話では、共通点や相違点に気付きながら互いの考えを伝え合うことができた。 ●個人で考えた後の全体交流は、教師と挙手した児童で一問一答のやり取りになりがちだった。	①	<b>p</b> 目的に応じて対話の形態を使い分けることで、考えの広がりや深まりを促す。 <b>p'</b> 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、理由や根拠を挙げながら、振り返っている。	<b>s</b> キーワード(指導事項等)を用いて学習をまとめることで、学びを確かなものにする。 <b>★</b> 本時の終わりに視点を与えた上で振り返りを記述させることで、次時の学習へ見通しをもてるようにする。	○指導事項に当たる言葉を用いてまとめることで、1単位時間ごとの学びの跡を残している児童もいた。 ●学習の振り返りを、数名の児童による口頭での発表にとどめていたため、全児童が自分自身の学びを振り返ることはできていなかった。指導事項をキーワードとして意識付ける必要があった。	①	<b>s</b> キーワード(指導事項等)を用いて学習をまとめることで、学びを確かなものにする。 <b>t</b> 学習の前後で、どこがどのように変わったのかを比較させることで、変容を自覚できるようにする。
単元後						

※「★」(振り返り)は、どの単元においても毎時取り入れていただきたい手立てとして、「手立て一覧表」に示しています。

# A校A教諭 9月の実践



- ・ 単元名 「友だちのことをもっとよく知るために、話し方名人・聞き方名人になって、たからものをしょうかいしよう」(話・聞)
- ・ 教材名 「たからものをしょうかいしよう」(東京書籍 2年上)
- ・ 身に付ける力 … 話す事柄を考え、順序立てて話すこと。  
… 大事なことを落とさず、興味をもって聞くこと。

## 《本単元の大まかな流れ》(全7時間)

- 第一次：教師によるモデルを通して発表への見通しをもち、学習課題と学習計画を立てる。
- 第二次：モデルを基に、宝物紹介の内容や話し方・聞き方の工夫について検討する。  
それらを踏まえて発表の練習を行う。
- 第三次：学級で発表会を行い、学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

の観点 授業改善	児童の 実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択		取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)		本単元での 児童の姿	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等	
単元前									
A 見通す	②	単元の学習計画に沿って、身に付ける力を意識しながら、本時や単元のゴールを見通している。	h 児童が行う(作成する)言語活動のモデルを教師が示すことで、児童の「あなりたい」「こうしたい」という願いや思いを引き出す。	○児童が行う宝物紹介のモデルを教師が示したこと、モデルに出てきた実際の宝物を用意したことで、児童が単元のゴールをイメージしやすくなり、意欲が高まった。	②			i 児童の学習履歴や単元の特質に応じて学習過程に軽重を付けることで、指導事項の習得を促す。	
			j 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。	○学習計画表を掲示したことにより、児童は単元のゴールを見据え、今どの部分を学習しているのかを把握することができた。 ●単元の途中で、児童は明確な目的意識をもつことができていなかった。				j 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。	
B 自ら考える	①	自ら問いを立て、何をどのようにしたら解決できるか考えている。	h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。	○注目させたい項目ごとに、宝物紹介のモデルを教師が示した。それにより、児童はモデルを比較しながらそれぞれのよさに気づき、自分が話すべき内容を考えることができた。	②	👍 ステップUP		l 学習する内容や相手等について児童が自ら決めたり選んだりする場を設けることで、積極性につなげる。	
			o 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。	○隣の学級の児童と発表の様子をビデオで見せ合うことで、互いの発表の仕方や内容のよさに気付くことができた。					
C 対話する	①	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。	m' もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする。	○宝物紹介で取り扱う内容について、児童がモデルから見付けたよさを全体で比較・検討したことで、学級全体で「宝物紹介するときのポイント」を整理することができた。	①			p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。	
			q ICT機器を用いることで、自分たちの対話を客観視できるようにする。	●タブレットを用いて発表会の様子を動画で記録し、発表会後にグループで振り返らせたところ、そこで初めて改善点に気付く児童も多かった。練習の段階からタブレットを用いればよかった。					
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、理由や根拠を挙げながら、振り返っている。	j' 到達基準を基に学習を振り返らせることで、自分の学びを実感できるようにする。	○単元計画表に対応するように、児童が振り返りを記入できる欄を設けたワークシートを作成した。児童は、学習したことや次時に取り組みたいことについて、毎時間振り返ることで、学びを実感することができた。 ●質問するときを使う言葉や、答えるときに使う言葉などをまとめて、カード化したりファイリングしたりさせておけば、児童がそれらを活用して学びを振り返ることができたのではないかな。	②	👍 ステップUP		v 習得した知識及び技能、考え方をカードやファイル等に蓄積させておくことで、次の学習でも活用できるようにする。	
			w 単元で学んだことについて、日常生活の中で活用する場を設定することで、学びの習熟を図る。	○単元後、朝の会で学習したことを基にスピーチをしたり、友達のスピーチを聞いたりする中で、少しずつ指導事項が定着していった。					
単元後									



# A校A教諭 10月の実践 (公開授業)



- ・単元名 「どうぶつのひみつを見つけて、『どうぶつすごいぞクイズ』を作り、クイズ大会をしよう」(読)
- ・教材名 「ビーバーの大工事」(東京書籍 2年下)
- ・身に付ける力 … 大事な言葉や文に気を付けて読むこと。

《本単元の大まかな流れ》(全 15 時間)  
 第一次：教師によるモデルを通して学習への見通しをもち、学習課題と学習計画を立てる。  
 第二次：大事な言葉や文に着目してクイズを作る方法に気付く。  
 教材文を使って、クイズを作る練習をする。  
 第三次：自分が調べた動物についてのクイズを作り、1年生に向けてクイズ大会を行う。  
 学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

の授業改善 の観点	児童の実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択	取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)	本単元での 児童の姿	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等
単元前			<b>d</b> 当該単元に関わる <u>基礎的知識や語彙、関連する話題について事前に児童へさりげなく提供</u> することで、レディネスを調整する。	○動物に関する本や図鑑等を教室に置き、随時読めるように読書環境を整えた。興味をもって読み進める児童が多く見られ、単元導入時、スムーズに言語活動に入ることができた。		
A 見通す	②	単元の学習計画に沿って、 <u>身に付ける力を意識</u> しながら、本時や単元のゴールを見通している。	<b>h'</b> <u>モデルを提示</u> することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。 <b>j</b> <u>到達基準を提示</u> することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。	○手本となるモデルを示したことで、活動が明らかになり、「こういうことができるようになりたい」と考えながら学習に取り組むことができた。 ○改善の余地のあるモデルを提示したことで、身に付ける力をより明確にすることができた。 ○「今日のゴール」という言葉を用いて単元のはじめにゴールを示したことで、児童は目的意識をもって授業に臨むことができた。 ●到達基準の内容が、具体的に何を示すか明確でなかった。	③ ステップUP	<b>j</b> <u>到達基準を提示</u> することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。
B 自ら考える	①	<u>自ら問いを立て、何をどのようにしたら解決できるか</u> 考えている。	<b>m</b> 児童が <u>考えを整理したり、書き出したりする時間を確保</u> することで、自分の考えをもてるようにする。 <b>n</b> <u>板書やワークシートを工夫</u> することで、考えを整理できるようにする。	○「一人で→ペア(グループ)で→みんなで」という流れで学習を行ったことで、自分の考えをもって取り組むことができるようになってきた。 ●単元のゴールに向けて、何をどのようにするのかを考えることはできるようになってきたが、学習過程の中での変更や応用にまでは至っていない。 ○板書と対応するように、ワークシートを作成したことで、児童が考えを整理しやすかった。	② ステップUP	
C 対話する	②	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付き、 <u>考えを確かなもの</u> にしたり、 <u>見直</u> したりしている。	<b>o'</b> 中間発表で <u>他者から質問や助言を受け</u> る場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。	○観点に沿って互いのクイズを見直すことで、内容をよりよく修正することができる児童が半数近くいた。 ○タブレットで記録した動画を見返すことで、自身の発表を客観視することができた。 ●観点に沿った適切な助言をすることが難しいグループもあった。グループ編成に留意しながら、再度この手立てを取り入れることでステップアップを図ることができるのではないか。	②	<b>o'</b> 中間発表で <u>他者から質問や助言を受け</u> る場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、 <u>理由や根拠を挙げながら</u> 、振り返っている。	<b>j'</b> <u>到達基準を基</u> に学習を振り返らせることで、自分の学びを実感できるようにする。	○指導事項の内容を踏まえて設定した到達基準を基に、できるようになったこと、分かったこと、次に頑張りたいことについて記述させたことで、具体的に学習を振り返る姿が見られた。 ●到達基準の文言にあった「クイズ作りのコツ」の内容が、具体的に何を示すのか児童に明確に伝わっていなかったため、振り返りの根拠が曖昧になることもあった。	② ステップUP	<b>u</b> 単元で学んだことの <u>意義や改善点、自分の変容について記述</u> させることで、成長を自覚させるとともに、次の学習につなげる。
単元後			<b>w</b> 単元で学んだことについて、 <u>日常生活の中で活用する場を設定</u> することで、学びの習熟を図る。	○生活科の単元「冬の生き物をしらべよう」で、調べた生き物や植物について保護者に向けたクイズ作りを行った。習得した力を活用し、自分が調べたい内容に合った本や図鑑を選びながら必要な言葉や文を探す姿が見られた。		